



北部のトチの巨木林を取材。小さく見えるのが生徒



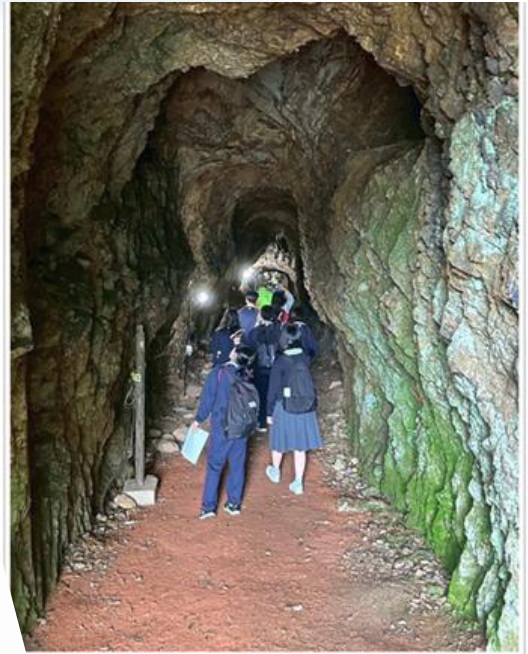
360度カメラで水中も撮影



戦争体験を聞く

VRで残したい地域の記憶

【新聞部VRアーカイブ計画】



戦争遺跡の機関車避難壕を歩く

虎姫高校新聞
224号
(2025年
10月20日発行)

滋賀県立虎姫高等学校 新聞部

- 代表者 小川倫輝（3年）
- | | | | | | |
|------|-------|-------|------|------|--------|
| 矢守蘭 | 勅使河原葵 | 橋本悠生 | 辻美祐 | 中川陽色 | 廣瀬実樹 |
| 丸岡陽介 | 神藤逸希 | 田中梨々花 | 林泰成 | 田川華帆 | 東野千真 |
| 桑名葵 | 高山幸笑 | 南雲慧太 | | | (以上2年) |
| 浅井咲穂 | 何歆婷 | 津田太祐 | 藤田結花 | 藤本真優 | 堀明日香 |
| 渡辺真白 | 平井美結芽 | 法邑琉生 | 川村彩日 | 塚田真生 | 松井稜叡 |
| | | | | | (以上3年) |

テーマは「VRで残したい地域の記憶」～体験できる記憶へ

私たちのテーマは

「残したい『地域の記憶』をVRを使って継承していきたい」です。

私たちは長年、地域の声を拾い、紙面として「読む記録」を残してきました。しかし、情報のデジタル化が進む今、ただ記録するだけでなく、いかにして「自分事」として次世代に伝えるかが大きな課題でした。新聞部として取材し、記録し、発信してきた経験にVRを掛け合わせることで、「知識」ではなく「体験」として地域の記憶を残せるのではないかと考えました。

そこで私たちは、**新聞部の取材力にVR技術を掛け合わせ、地域の記憶を「体験できる記録」へと発展させる挑戦**を始めました。



VRゴーグルをつければよりリアルな体験ができます！

プランを考えたきっかけは「戦後80年」

2025年は戦後80年。新聞部では「戦後80年」をテーマに取材活動をしました。取材した一つである「岩脇蒸気機関車避難壕」は滋賀県で唯一文化財に指定されている戦争遺跡ですが、身近にあってもあまり知られていません。滋賀県にはほかにも戦争遺跡がありますが、保存されない戦争遺跡は風化して崩れ去るのみ...という事実を知り衝撃を受けました。現代でも世界を見れば今なお戦争は続いています。**持続可能な平和な社会を目指すうえで、地域の戦争の記憶を残すことは喫緊の課題**だと考えました。

また、「戦後80年」の取材では、「戦争を語り継ぐ会」の語り部さんたちから戦争体験を聞きました。体験を語ってくださった80代、90代の語り部の方は一様に「戦争を語りつないでいくことが大事」とおっしゃっており、継承していくことの大切さを学びました。そこで**戦争遺跡だけでなく取材した戦争体験者の体験も残せないか**、と思ったのがこのテーマを考えたきっかけです。

また同時に他の取材で知った**地域の豊かな自然や歴史もVRで残したい**、と考えました。滋賀県には豊かな自然や、歴史の舞台になった場所がたくさんあります。**360度カメラで撮影した映像をゴーグルをつけて見ると、その場にいるようリアルな風景を体感することができます**。行ったことのない場所でもこのようなリアルな体験をすることで、**地域の持つ魅力を多くの人に知ってもらうことができるのではないかと考えました**。

さらに風景動画の効果について調べていくと、高齢者が懐かしい風景を見ることで、認知機能の改善がみられるという効果がある（回想法）ことを知りました。そこで高齢者にとって**懐かしい地域の風景をVRで残し、介護施設や老人ホームなどで視聴してもらうことで、認知症対策の一助につなげられるのではないかと**、と思いました。

このような理由から「VRで残したい『地域の記憶』」というプランを考えました。

残したいコンテンツ

残したいコンテンツは3つです。

- 1、戦争遺跡・戦争体験者の声
- 2、地域の自然と歴史
- 3、懐かしい風景

残したい地域の記憶を、VRを使って未来につなぐ。
それを高校生が担うことに意味があると考えました。



80代から90代の方に戦争体験を取材し、紙面にまとめました

虎姫高校新聞224号
(2025年10月20日発行)

プランの特徴

目的に応じてコンテンツを選択できる

多くの人が気軽にアクセスできるVRのプラットフォームを作ります。いろいろなコンテンツ作り、それを明示して、目的に応じて選択できるようにし、制作した情報を閲覧・学習できるようにします。

360度カメラによる撮影でその場にいるような体験ができる

風景は360度カメラで撮影しました。ゴーグルをつけてみることで、その場にいるようなリアルな体験をすることができますし、ゴーグルがなくても映像を見ることはできます。見る人の環境によってどちらか選べます。

VRでリアルな体験

360度カメラ
で撮影しました

戦争遺跡の機
関車避難壕の
取材の様子



知識から
体験に

映像を見ると避難壕
の中にいるよ
うな、リアル
な体験がで
きます。

残したい具体的なコンテンツ1 戦争遺跡・戦争体験者の声

2025年は「戦後80年」。新聞部では様々な取材をしました。取材が進むごとに残したい思いが強くなりました。

①戦争遺跡や戦争の語り部さんの声 →学校や地域の集まりで平和学習などに利用

【岩脇蒸気機関車避難壕】滋賀県で文化財に指定されている唯一の戦争遺跡です。地元の岩脇まちづくり委員会の方のご案内で、壕の中に入りました。米原市の文化財に指定され、地元の方が6年をかけて整備され、保存されています。壕の中に入ると、特有の湿った空気が感じられます。

【学校の近くの衝撃練習場（戦時中に本校の生徒も射撃の練習をしたという場所）】や【八日市市飛行場後の壕】などは文化財として保護されていないので、このままでは風化して消えていく可能性があります。文化財として指定されていないものも積極的に記録に残していきたいと考えています。

【戦争体験者が作った紙芝居や話】語り部さんの戦争体験の手作りの紙芝居。どれも思いがこもったものです。途絶えつつある語り部さん方の活動を保存し、戦争体験の継承することができます。

戦争遺跡は、岩脇の蒸気機関車避難壕のように保存されなければ、風化して崩れていく運命にあるという厳しい現実や語り部の方の「語り継いでほしい」という言葉が、忘れられません。

戦争遺跡や語り
部さんの声
をVRで残す

学校や地域の集
まりで平和学習
などに利用

戦争のない、平和な
社会を維持したい



戦争体験の話を取材



語り部さんの紙芝居

大依山
射撃場跡

虎姫高校

鐘紡長浜工場
（機銃掃射痕）

岩脇蒸気機
関車避難壕

虎姫高校近辺
の戦争遺跡

八日市
飛行場跡



残したい具体的なコンテンツ2 地域の自然と歴史

【米川】長浜の中心を流れる米川の流れを水中に入って撮影。また米川でビワマスが産卵してくれるように、産卵場所を作る活動の映像もあります。水中カメラで撮影し、水中の変化もわかるように工夫しました。

【トチノキ巨木林や鉱山跡】県北部にはトチノキの巨木林や、希少植物が生育するなど豊かな自然があります。土倉鉱山は昭和に鉱山として栄えた場所で、当時の社会の様子や歴史の移り変わりを学ぶことができます。

【伊吹山】県最高峰の伊吹山は固有の生態系を持つ自然豊かな山ですが、現在は落石などで登山道が閉鎖されています。鹿の食害と思われる木々の映像もあり、山の現状や課題を知ることができます。

【小谷城や虎御前山】戦国武将・浅井長政の居城の小谷城や、虎御前山の豊臣秀吉や織田信長の陣の跡など歴史遺産も豊かです。近くには姉川の戦いの跡や、徳川家康の陣の跡もあり、大河ドラマでもよく登場する舞台です。地元の歴史に興味を持ってもらい、また、観光客が訪れるするきっかけにもなることが期待されます。

VRコンテンツの例

製作中のプラットフォーム(ワールド)

学校や地域の集まりで

学びたい映像を選んで視聴

老人ホームやデイサービスなどの施設で

自分の懐かしい風景を選んでもらい視聴

地域の豊かな自然や歴史の知ってもらう

知識から体験に

そして興味・関心へ

残したい具体的なコンテンツ3 高齢者の懐かしい風景

その場に行けなくても映像を見て話のきっかけに

認知機能の改善や抑うつ症状が軽減(回想法)

生活の質の向上

③高齢者の懐かしい地域の風景 → 老人ホームや介護施設などで、 高齢者が語り合うトピックとして利用

高齢者が小さいころに遊んだと思われる、神社や川、石段などをコンテンツにそろえました。多くの人に協力してもらってさらに高齢者の思い出を増やすことで、見たい映像を選んでもらうことができます。

懐かしい映像を見ると、「この川でよく遊んだわ」など高齢者との会話が自然と生まれます。私たちの取材力を活かし、対話を生み出すきっかけを作ることを目的にしています。

それが高齢者の認知機能の改善や抑うつ症状を軽減させ（回想法）、生活の質の向上に役立てられるのでは、と考えています。

この川や神社で遊んだわ



取り組みの中での困難とその克服

取り組みの中で直面した課題の1つ目は、新聞部の既存パソコンではVRを製作するのに性能が圧倒的に不足していたことです。そこで私たちは、予算内で最高性能を確保するため、パーツの選定から行い、**自分たちで専用パソコンを組み立てることから始めました**

これは、技術だけでなく予算を考えることや計画性の必要も実感しました。

2つ目に、VRに関する知識も不足していました。そこで、**大学の先生やVR体験会から学び、360度カメラによる撮影技術と編集手法を習得しました**。単なる「動画」ではなく、その場にいるような「没入感」をどう作るか、**試行錯誤の連続**でした。VR映像は、こうした試行錯誤の中で、私たち自身が制作したものです

各種イベントで体験会を実施

学園祭や地域のさまざまなイベントで参加者にVRを体験してもらいました。特に**子どもたちには人気で順番待ち**が出るほどでした。「自然」をVRで体験した人からは「現地に赴かなくても自然の景色を楽しめる」「このような体験で滋賀にある様々な自然を知り、興味を持つ人が増えるのではないか」といった声がありました。

このプランでは**実際に現地に行けない人も実際の風景を体験**できます。認知機能の改善ができれば高齢者の生活の質の向上にもつながります。その意味では「誰もが生きやすい、住み続けたいまちづくり」の一助になります。また、地域の多くの風景（自然・歴史）を見ることが、地域に愛着を持つことができ「シビックプライド（住民としての誇り）」を醸成することに繋がります。これも「誰もが長く住みやすいまちづくり」に寄与できると考えています。



映像を見る家族



大学の先生からVRを学ぶ

今後の課題

今後の課題は「多くの人に使ってもらえるプラットフォームにすること」、また、「存在を知ってもらい、広げていくこと」ことです。

知ってもらうための工夫を

SNSでの広報や、市と連携して市のサイトに取り上げてもらえるように働きかけをします。また、小中学校にもPRし、地域学習の時に出前授業に行くなどして、VRの体験してもらいます。老人ホームなどにも出向き、実際に体験してもらえたら、と考えています。

活動を広げ多くの人と協働

高齢者向けの「懐かしい風景」はできるだけ多くの地域の風景があった方がよいので、多くの人に体験して活動を理解してもらい、協力してもらうことで**コンテンツを増やしていきたい**と考えています。

人気で順番待ちも！



高齢者も興味津々！

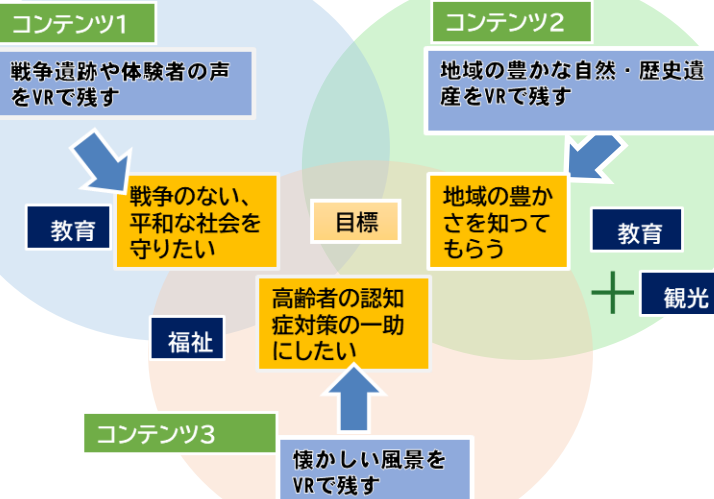
まとめ

私たち新聞部の役割は、課題発見・記録・発信です。VRはその力をさらに広げます。私たちは**取材活動を生かし教育や福祉・観光に役立て「地域の記憶を、未来につないでいきたい」**と考えています。私たちが目指すのは、記録するだけのアーカイブではありません。**体験し、学び、次の世代につなぐアーカイブ**です。

私たちはこれからも、「記録する新聞部」から「体験を残し、未来に繋ぐ新聞部」へと挑戦し滋賀の豊かな記憶を、これからも残し続けていきたいと思っています。

目指すイメージ

VRならその場に行けなくても
リアルな体験が



記録するアーカイブから、
体験し、未来に繋ぐ

アーカイブハ